

ゆきの灯り

第39号

令和2（2020）年
4月発行
油木協働支援センター
TEL 82-0701
FAX 82-2228



令和元年度活動・進捗報告

《令和元年度総括と新年度からの方向性》

専門部会の会議は主に下半期に集中し、一年を総じて協議することに終始しました。令和2年度はこの協議内容と進捗を基に、具体的な行動につながるよう舵を切っていく予定です。

《各専門部会》

○いちば再生部会

いちば地域の空き家対策、賑わいの創出について話し合いがなされ、その拠点として「にしかわ」を活用する事に協議の争点を絞りました。

○体験・交流推進部会

「一緒に未来を見つけようプロジェクト in 油木」の、募集内容と要綱の改正を行う事に決まりました。

○農村環境維持・向上部会

地域農業の担い手が集まり、農業経営を維持するに当たり抱える課題について洗い出しを行い、その対策案を協議しました。その結果、労働力不足対策、鳥獣害対策について今後も協議を進める事に決まりました。

○わくわく農業チャレンジャー部会 (農業振興・特産品開発部会)

論点を百彩館周辺の活性化に絞り、自分たちが取組める活動について協議をしました。新年度から賑わいのある空間づくりについて具体的に動き始める事に決まりました。

○生涯学習部会(ゆきなび部会)

放課後子ども教室(ゆきキッズクラブ)・大人の教室を例年通り開催しました。また、伝統文化継承事業として各地の神儀を保存することとし、その保存方法や撮影のやり方が協議されました。

わくわく農業チャレンジャー部会

3月24日、2回目の部会を開催。今回は、油木のシンボルでもある百彩館の今後に向けて、私たちが出来ることを中心に話し合いました。生産者が産品を出荷しても、お客さんの数に対して商品が余ってしまう事があってしまう事がある。従って出荷量も減ってくる。また、最盛期には生産者間で商品に偏りがあり、だぶつくことも

多い。そこで店間移動が出来ないかと考えましたが、182ステーションと手数料率が2%違い、それも難しい事が分かりました。これを調整する手立てを自分たちでも提案できないものだろうか。そこで、お客さんを少しでも多くすることが肝心ということで、「食堂部分の活用を推進できることを模索しよう」とか、

「ゆきなび」部会

伝統文化継承事業 神儀チーム

〜撮影に向けて〜

3月25日に「にしかわ」で神儀チームの具体的な日程や準備物について話し合いました。

皆さんの急用が重なり、センターの職員を除いた出席者は2人でした。

撮影の練習日程は、欠席したチームからの連絡で4月23日に神楽保存会の練習を撮影させ

「コインランドリーの設置を要望したらどうだろうか」との話も出ました。そんな中で、平日の集客が難しいなら土日祝日へ焦点を当てて、駐車場で「軽トラ市」をやってみたらどうだろうか。という意見が出ました。車を少しでも導き入れるイベント開催をしてみれば、百彩館にも賑わいを生むことができるのではないかとということでは、次回からその企画を考えてみようということになりました。



ていただくことにしました。本番の撮影に生かせるよう、一人一人の動きなどを確認したいと思えます。

その後も連絡を取り合い、センターの事務所に寄っていたき用意するものなどの打ち合わせもしました。

また、今年度実際に撮影する2カ所

「油木のまち歩き」企画

紆余曲折を経て、ようやくストーリーの軸が決定しました。固まりそうでも固まらなかった企画案。3月はミーティングを3回開き、その結果、メンバーの方々が定まっています。



「にしかわ」運営委員会

「懐かしの写真展」企画 こちらの企画も積極性が増してきて、月のミーティングも3回に。

今月のお題目は「展示の仕方」。

選んだ写真を広げて、見て面白いと思える見せ方について、じっくり話し合いました。

詳しい内容は是非、実際の『写真展』でお楽しみください。展示の仕方と共に話題の中心になっていく事がもう一つ。

『何が写っているんだろう?』



「どんな風に並べようかな?」

これまでの話合いでテーマを「油木の化石と地層」に絞っていったので、月の初旬に中西正一先生を「にしかわ」にお招きし、油木で産出する化石について教えて頂きました。中西先生の話は多岐にわたって、化石や地層、鉱物についてだけでなく、今見られる特徴的な動物昆虫・貝などについても興味深いお話をたくさんして頂きました。

行われていて、メンバーの興味津々な表情を見て「行ってみますか?」一言。その翌週に日程を定めて、化石採掘フィールドワークに連れて行って下さいました。出ましたよ!化石が。実際の現場を見て体験すると、話に聞いているだけではわからないことにたくさん気づかれます。この経験をもとに、まち歩き企画案を今度は企画書に仕上げていきます。



田んぼの隣。こんな所から化石が!

して聞き込み調査に行ったりもします。そうして、人の輪が広がっていきます。写真も集まっています。

企画展開催はまだもう少し先になりますが、懐かしの写真を見て是非、思い出話に花を咲かせてください。

大人の教室

味噌づくり

体験教室

3月17日(火)に今年度最後の教室、みそ作り教室を開催しました。今年も講師に中平道正さんをお願いしました。

始めに味噌の出来上がる過程や、材料による味噌の違いなどの説明を聞きました。その後で米麴・大豆・食塩を混ぜ味噌を作りました。材料も全て講師が準備してくださるので簡単な作業ですが、家庭でも手

り味噌ができるように、丁寧に教えていただきました。とても人気のある教室で、皆さん楽しくみそ作りができました。



団体・サークル紹介 第3回

油木そば打ち同好会

月一回、油木コミュニティセンターでそば打ち同好会を発足されました。

百彩館祭りで食堂を練習をされています。そば打ち同好会は会長の前原さんを中心に7名で活動されています。平成12年当時、油木公民館長であった藤井優晴さんは、神石地区でそば打ち教室をしているという情報を聞きました。これを公民館活動として油木でも行えないかと考えました。そこで、

桑田欣三郎(きんざぶろう)さんを講師として平成14年にそば



2020年度 ゆきなび予定

ゆきキッズクラブ	料理教室	大人の教室	料理教室
	粽・柏餅作り		蒟蒻づくり教室
	お茶教室		そば打ち教室
	そば打ち体験		豆腐作り教室
	蒟蒻作り体験		みそ作り教室
	楽描き教室		パンづくり教室
	自然を楽しむ会		パソコン教室
	工作教室		手芸倶楽部
	伝統文化継承教室		スカッシュ教室
	化石魅力化の集いフィールドワーク		

※4月7日現在の予定ですが変更となる可能性があります

講師や安全管理人の皆さん、2019年度のゆきなびにご協力ありがとうございました。2020年度もよろしく申し上げます。皆さんどうぞご参加ください

学術雑誌・科学図書の寄贈を受けました

豊橋自然史博物館 館長 松岡敬二さん

3月12・13日の2日間、センター長・事務局長・尾森地域おこし協力隊員の3人が、豊橋自然史博物館の松岡敬二館長のもとを訪れました。

油木出身の松岡館長は故西川功さんとも交流があり、子どもの頃は一緒に化石採集などありました。そのご縁で西川化石標本の取り扱いについて色々とアドバイスを頂いています。



博物館には35年勤められ、今年度いっばいで館長職をご退任されるという事で、長い間に集められた学術雑誌や書籍類を油木協働支援セ

2019年度 下半期 採択分 協働のまちづくり事業審査会

- ◎仙養自治振興会 西道班 事業名：机、椅子整備で集会参加を増やそう 助成金額 134,000円
- ◎安田自治振興会 事業名：各種イベント等に利用出来るハイグレードな音質・大出力の音響システムの導入 助成金額 405,000円

にしかわだより 気持ちいい 利用

寒い季節に「にしかわ」を利用される個人や団体の方の大きな魅力のひとつが「にしかわ」の暖房を担っている薪ストーブです。薪ストーブは一階フロアの奥側に置かれています。集まられた皆さんが燃えているストーブの前で、体全体で熱を受け止められ、体を温めるだけでなく、炎の揺らぎを見たり、熾(お)きの輝きにも魅入っておられます。

この時期に「にしかわ」で使って欲しいと、ストーブで燃やす木が集まっています。「にしかわ」の庭や倉庫で、薪割り斧・電動薪割り機・木工用テーブルソーなどを使って枝木や丸太を切り割りし2・3年後のストーブ用の薪になるよう、壁際に積んで乾燥を進めています。季節は春から夏へ進んでいきます。心温まる薪ストーブから、ひんやり気持ちいい風を送るエアコンの登場になります。これからの季節にも、地域の交流や、個人や団体での利用に「にしかわ」を、しっかりと活用ください。(分室長 松岡 純夫)

化石魅力化の集い 「にしかわ」

3月の「集い」は、先月の本紙で呼びかけを行い、中庭に積み上げられたままになっている標本の分別と整理を行いました。なぜこの標本が屋外で山にされているのか今一つ理由が明らかではないのですが、これを利用して化石探しワークショップが出来ないかと思いい、作業することになりました。

中には明らかに化石と分かるもの、鉱物の標本として採取さ



頂いた書籍

